

2270 | 教職実践演習(中・高)

2 単位 (通信授業 1 単位、面接授業 1 単位)

大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授

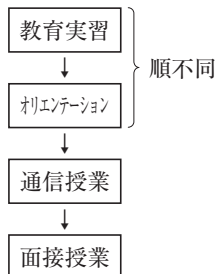
授業の概要と目標

本授業科目は、教育実習を行った者が免許状を受ける前に学校教育全般と免許科目（中学校美術、高等学校美術・工芸・情報）にわたって、自分自身の教育実習を踏まえて教員としての能力の向上の課題を把握して、教育現場で指導力を発揮するための演習科目である。具体的には、オリエンテーションを受講し、通信課題のレポートを作成して合格し、面接授業では演習に参加して発表や討議を行って、教職課程の「総まとめ」「総仕上げ」を行う。

課題の概要

- オリエンテーション課題
指定された様式に基づいて「教育実習の概要」(A 4 判 1 枚)を当日に提出すること。
- 通信授業課題
「教科教育以外の教育実習の反省」
上記の課題について、行った教育実習と教職課程の各科目の教科書を参考に論述すること。
- 面接授業課題
「研究授業学習指導案」(実際に実施したもの)と「教科教育の教育実習の反省」
上記の課題について、行った教育実習と教職課程の各科目の教科書を参考に論述すること。
*課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画



[オリエンテーション]
この授業科目の目的や具体的な学習内容などを説明する。各自から提出されたオリエンテーション課題により、討議や質疑応答なども行う

[通信授業]
教育実習を終えて、学校教育全般についての学習の総まとめとして、通信課題に取り組み、教員として能力の向上のための自分自身の課題を明確にする。

[面接授業]
教育実習を終えて、教科教育などの学習の総まとめとして、演習に参加して、教員として能力の向上のための自分自身の課題を明確にする。
・ 前提講義
・ 設定したテーマと各自の面接授業課題レポートに基づく発表と討議
・ 講評

成績評価の方法

面接授業の講評などを基に評価する。この授業科目は教育職員免許法施行規則の改正による新課程で追加となった授業科目として、厳正な成績評価が求められるもので、オリエンテーション提出物から面接授業講評にいたる情報のほか、毎年度の履修カルテ等の提出物、教育実習の状況等をふくめて担当教員全員の合議による評価を行う。

履修条件及び履修年次	<p>[履修年次] 4年次</p> <p>[履修条件] 教職課程に登録していること。当該年度内に教育実習を行う予定であるか、前年度までに教育実習を終了していること。 「教育実習Ⅰ」(中学1種・高校1種)または「教育実習Ⅱ」(中学1種のみ)、「教育実践の研究」の単位を修得しているか、同時に履修登録していること。</p> <p>[備考] オリエンテーションを受け、さらに通信授業に合格したうえで、面接授業を受講する。必ず教育実習を終えてから通信授業課題に取り組むこと(日程等の都合上、「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」の単位が未修得である場合も通信授業課題の提出可能)。教育実習が中止となった場合は、オリエンテーションの受講はできない。</p>
------------	--

教材等	<p>教科書：『美術教育の動向』大坪圭輔／三澤一実編(武蔵野美術大学出版局 2009年)</p> <p>学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成29年度』 (武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年)</p>
-----	--

その他	<p>平成24年度までに「教職総合演習」の単位修得をした者(旧課程適用者)はこの授業科目を履修する必要はないが、旧課程適用者でも平成24年度までに「教職総合演習」の単位修得ができなかった場合は、この授業科目の履修が必要となる。</p>
-----	---